

第3回 へきなん自殺対策計画策定委員会 会議録

1 日時 平成30年10月24日(水) 午後1時30分から2時10分

2 場所 碧南市役所 会議室1

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者：7名

山中寛紀、長田和久、竹内和美、河原厚司、中山修、  
石川恵子、鈴木裕

(2) 欠席者：3名

山本直仁、杉浦時子、塩之谷真弓(代理 橋本靖出席)

(3) 事務局職員

健康推進部長 杉浦秀司、健康課長 齋藤雅人

健康課課長補佐 中根みはる、健康課成人保健係長 羽佐田美和子

健康課成人保健担当係長 石川麻子

4 傍聴者なし

5 協議事項

(1) こころの健康に関する住民意識調査の結果について

(2) へきなん自殺対策計画の基本方針(案)と庁内棚卸作業の結果について

6 議事の要旨

(1) 会長あいさつ

(2) 協議事項

1) こころの健康に関する住民意識調査の結果について

事務局説明

2) へきなん自殺対策計画(案)について

A委員：目標値を設定するということは、もう一度アンケートを取るのか。

事務局：5年後にアンケートを取る予定です。

B委員：自分の感想ですが、16ページ、17ページで、30代から50代の

方で悩みやストレスを感じる割合が多く、話せる人や打ち明けられる人が少ないという数字になっています。これはやはり働く世代ですし、女性は子育てが大変な時期なので、交友関係が少なくなっていると思います。自分自身も、例えば同窓会に出

るとかグループ活動をするのは仕事を辞めてからでした。そう  
いったところが反映して、プライベートのコミュニケーション  
がないのでストレスを感じ、なおかつ打ち明ける人がいないの  
かなと思いました。

また、私自身が67歳という年齢なので思ったのですが、24ペ  
ージ、25ページをみると、60歳代の方は「これまでの人生の中  
で本気で自殺したいと考えたことがない」というのがすごく多  
いです。自分自身をみてもそうですが、戦後から復興にかけて  
よい時代を今の60歳代の方は生きています。産業の発達や、ま  
たお金もありました。そういったことが反映しているのかなと  
思いました。それでも1年以内に60歳代は意外と「自殺したい」  
と思っている人が多いのでびっくりしたのですが、次の26ペ  
ージをみると「家庭の問題」「病気など健康の問題」「経済的な問  
題」がまったく同比率で出ています。周りをみても同じ年代で  
は、子どもがなかなか結婚しない、自分の病気が出てくる、親  
の介護、年金が少なくつらいといった話がたくさん出てきま  
す。こういったものをみると如実に反映させていると思いま  
した。

また、37ページの「相談体制の周知」というところで、女性の  
トイレなどで時々みるのですが、DVの相談窓口などそういつ  
たものを考えていらっしゃるのでしょうか。そういったPRは  
すごくよいなと思います。役所にたくさん窓口があるのですが、  
そういった堂々としたところに追い詰められた人はなかなか行  
きづらいです。自分自身も悩んでいたときに、こういったここ  
ろの相談というものがあるのだと思ったことがあるので、そう  
いったところに力を入れてくださるとうれしいです。スーパー  
にあたりもしました。そういったところは意外と大事だと思  
います。正面から堂々と相談にくる人は死なないと思います。  
また、43ページに「多重債務者無料相談会」というのがあり  
ますが、担当課が国保年金課ということでした。これは現実に市

で行っているのですか。

事務局：年に1回と国保年金課から聞いています。

B委員：広報などでもみたことはありません。電車に乗っているといろいろな法律などの無料相談があるという広告をみますが、市でもこのようなものがあるとよいと思いました。

47 ページに「いじめアンケート、メンタルアンケート」とあるのですが、これは今もやってみえますか。テレビでどこかの中学校で、例えば自殺者が出たらいじめに対するアンケートをするというのはよくみますが、学校でやっているのですか。

C委員：小中学校に関わる人間としてお答えします。各学校でやっております。小学校も中学校も学期ごとにやって、その結果をもとに個別で面談をします。深刻になる場合は早急にカウンセラーと面談をしたりしています。それで全部拾い出せるかというのと、そうでない部分もあります。年に2回ないし3回行っています。

B委員：それは素晴らしいです。テレビをみていると、事件の後にやっている感じがしました。ありがとうございました。

3)その他 特になし